



令和2年12月号

「動機付け」

先日のニュースを見て驚いたのですが、日本経済新聞（電子版）の11月30日に「地銀、フロッピーディスクの取り扱い終了相次ぐ」という記事が配信されました。その記事を見て、フロッピーディスクがまだ生産されていた事と銀行や行政機関で未だにフロッピーディスクが使用をされていた事の2点に驚きました。調べてみると実はごく最近まで、市町村職員の給与のデータをフロッピーディスクでやり取りをしていた所もある様でした。何故、今までフロッピーディスクを使用していたかというのが「慣例だったから」と「個人情報安全性」と言う理由でした。（フロッピーディスクだと安全性が高まる理由が良く分かりませんが…）

人は、今までやり慣れた方法を変更する事を嫌います。何故、嫌いかと言うと「不安」だから。「やり方が分からない不安」「結果が分からない不安」「上手く出来るかどうか分からない不安」「失敗したら責任を取らなくてはいけないという不安」様々な不安に直面をする中で、多くの場合は変化をしない（させない）という選択肢を取ります。それは、自閉傾向が強いお子さんや、失敗や間違える事に敏感に反応をしてしまうお子さんにもあてはまり、不安が強くなりすぎて癩癩やパニックを起こしてしまう、気分が高揚しすぎてしまう、攻撃的になるなどの行動や情緒面で反応が大きく出る子もいます。

その時に、変化や変更を受け入れる為の「動機付け（モチベーション）」が必要となります。動機付けには「内発的動機付け」と「外発的動機付け」があり

「内発的動機付け」は、興味関心や満足感、達成感などその人の内から出てくるもの

「外発的動機付け」は他者からの評価や褒められる、罰を与えられるなどの外的要因によって行動をする事になります。

先々月に私の文章の中で挙げた「妻を怒らせない」と言うのは「外発的動機付け」となります。ただ、この「妻を怒らせない」は怒られたくないと言うだけではなく「笑顔でいて欲しい」→「笑顔でいる事が自分も嬉しい」と言う「内発的動機付け」の要素もあります。

私たちの活動の中でも、どの様に子どもたちに「動機付け」を持ってもらうのかを意識します。その子の特性や性格によって、内発的・外発的を使い分けて行くのですが、最終的な目標は「内発的動機付け」に繋げて行く事です。

では、どの様に繋げて行くのか…文字数が限られてきたのでまた次回！

嵯峨憲司